祐介の目

№180



大田祐介（福山市議会議員）

ふくやまマラソン

第45回ふくやまマラソンのハーフマラソンに出場した。従来のコースを一新し、バラが咲き誇るばら公園を経由して福山城を周回するコース設定であり、２時間21分かかったが沿道からの声援のおかげで完走することができた。

市内中心部を走るので交通規制により沿線住民にはご迷惑をおかけしたが、念願の都市型マラソン大会の開催にこぎ着け感慨深い。コースの評価は高く、ハーフだけで二千五百人がエントリーし、６割以上が市外在住者であった。ただ、初めてのコース故に案内表示不足など不備な点も多く、スタートとゴールが離れていたのも不評だった。日程も地域の運動会と重なるなど次回に向けて改善点は多い。しかし、このコースなら倍の五千人でも走れると感じた。素晴らしいまちおこしイベントに成長しそうだ。

大会を盛り上げたのは３人の女性ゲストランナーだ。私が「走力よりも参加者と交流できるゲストを」と提案すると、実行委員会は相応しいランナーを招待してくれた。オリンピアンの坂本直子さん、美しすぎる金髪マラソンインフルエンサー志村美希さん、元陸上自衛官でタレントの福島和可菜さん、３人は各種目の様々な場面に登場しては一緒に走り、ゴール前の苦しい地点に立って励ましてもくれた。また城北中学校の城北太鼓や福山市立中・高校のブラスバンドの演奏もランナーの後押しとなった。他にも多くのボランティアや関係者の尽力により大成功に終わった。

ゴールしたランナーには記念タオルが肩にかけられ、タオルを掲げて記念撮影をする姿も多く見られた。入賞者への賞品も「福山ブランド認定品の協賛をお願いしたら」と提案し、今までに無く豪華であった。私も当然山野峡ワインを協賛した。今から次回が楽しみだが、本大会は決してランナーのためだけではないと感じている。交通規制をして苦情が出ても開催するには公益性という大義が必要だ。それは市民の健康増進や福山市の知名度向上だろう。